
メダバトル

前田洋祐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メダバトル

【Nコード】

N5702A

【作者名】

前田洋祐

【あらすじ】

色々あって、メダバトル部に入ることになった、主人公リュウとその仲間達の物語。

第一話：出会い

中学を卒業して、
高校に入学、
テキトーな部活に、
入ろうと思っていた、
変なイジメられっ子に
会うまでは……。

俺の名前はリュウ！
中学を卒業して、
今日から高校生だ！
色々あって、中学時代は
全然もてなかった！
だからこそ！高校生活を
エンジョイしてやるぜ！

入学式が終って、教室にクラスの全員が集まった。

先生

「どーも！はじめまして！これから君たちの担任になる！ビシビシ行く！生意気言った奴は！ぶん殴るからなあ！……きつく言ってゴメンね」

リュウ

「（こいつなんだ？間寛平かつつの！）」

暇なリュウは、

後ろの席の男に話し掛けた。

リュウ

「なあーお前なんか部活入るの？」

後ろの男

「え？僕？！！」

リュウ

「話し掛けられたくらいで驚きすぎ！てか名前何？」

シュウ

「ゴメンナサイ！！えーと名前はシュウです」

リュウ

「俺はリュウ！よろしくな！」

シュウ

「よろしくおねがします・・・」

二人が話してる間も、

担任の訳のわからない

話が続いている。

担任

「えーまずはモノマネしまーす！」

うざいので二人の会話に戻る。

リュウ

「は？ボクシング部？お前にや無理だろ？明らかに弱そーじゃん！」
シュウの腕を見て言った

シュウ

「僕、中学の時3年間イジメられてて……、僕！！強くなりた
いんだ！！！！」

後半でかい声で言ったので、担任以外の全員が、
こっちをみた。

リュウ

「ばか！声がでかいんだよ！」

シュウ

「ゴメンナサイ……、やっぱり僕みたいな奴には無理かな。」

リュウ

「さあ？やってみないと、わかんねーよ」

シュウ

「僕、部室に入部届だしにいく勇気もなくて……」

リュウ

「根性ねえなあー！」

キンコーカーンコーン！

とりあえず一時間目が終わった、今日は2時間で終わりだから、あと
一時間だ。

二人の話は続いていた、
廊下から窓を開けて、

アホみたいな男が話し掛けてきた。

アホ

「あー！リユウじゃん！違うクラスだよなあ！淋しいなあ！」

リユウ

「（また、アホが来た・・・）で、なんの用？カイリ！」

カイリ

「あー冷たいねえ！んでさ！部室に何入るの？俺はメダバトル部に入る！」

リユウ

「メダバトル部？なんだそれ？お前知ってるか？」

シュウ

「すみません、僕も知らないです。」

カイリ

「あー君たちは時代遅れだねえ！ナレーションさん！説明よろしく！」

（メダバトル部）とは

一対一、もしくは、ペアで戦う、何でも有りの格闘技である！

勝負に勝つと相手が持つメダルを一枚奪えるのだ。

ちなみに学生ルールなので凶器は禁止。

使える武器は木刀などだ。ちなみに学生試合もプロの試合も一試合

10分、違う点は、学生試合は3ラウンドまで、プロの試合はどちらかが、ギブアップするか戦えない状況になるまで続く。

カイリ

「こんな感じ！」

リュウ

「面白そうだなあ」

シュウ

「……………」

カイリ

「じゃあ！リュウ！シュウ！入ろうよ！」

リュウ

「無理！俺はパス！」

シュウ

「僕……入ります……！！！」

カイリ

「お！入るの？でも俺は一週間後にはいるよ？用事があるからねえ」

リュウ

「シュウ！お前まじか？やめとけよー！」

カイリ

「んじゃ！俺は教室帰るわ」

アホが帰った後も
話は続く

シュウ

「入ります！決めました！だから今からついてきてください！」

リュウ

「今から？今は二時間目で・・・」

リュウ達が話している間に、二時間目が終わって、みんな帰り始めていた。

リュウ

「マジかよ・・・漫画じゃん！」

シュウ

「おねがいます！ついてきてください！」

リュウ

「まあついていくよ、俺は入らないからな！」

シュウ

「ありがとうございます！早速行きましょう！」

シュウはリュウの腕を掴んで走りだした。

リュウ

「うわわわわ！」

二話に続く・

第二話：流れに流されて（前書き）

主人公リユウが流れに流されまわります！いつきにキャラが増えて可笑しくなりました！ワラ

第二話：流れに流されて

流れに流されてリュウは、メダバトル部の部室前にきた。

リュウ

「でけー！体育館並みのでかさだな！」

シュウ

「よし！入りましょう！」

リュウ

「お前、キャラ変わってないか？」

ガラガラガラガラ。

扉を開けたら、

中には、5人くらいの男女がいた。

みんなは練習を中断して

リュウ達の方へ来た。

デカイ坊主

「なんのようだね？」

金髪の女

「もしかして……………」

ちび男

「侵入部員か！」

クールな男

「侵入じゃない・・・新入部員だ・・・」

マネージャー？

「そうなんですか？」

リュウ

「あー！もう！一気に話し掛けんなよ！！俺は付き添いで来たリュウだよ！」

シュウ

「入部届け持ってきました」

マネージャー？

「あーやっぱり！うれしいなあ！」

デカイ坊主

「まで！入部試験に合格しないと！」

ちび男

「まあ！いいじゃん！合格で」

金髪の女

「たしかに試験はやらなきゃね」

シュウ

「試験つて？」

マネージャー？

「まあその前に自己紹介ね！ナレーションさん！よろしくおねがいします！」

（部員紹介）

デカイ坊主で柔道を得意とするのが（ゴン）

金髪の目付きの悪い女、カポエラーを得意とするのが（リン）

ちびの男で帽子をかぶっている、玩具を武器とするのが（サスケ）

黒髪のクールであり喋らない男、竹刀を武器とするのが（カイ）

マネージャーの（ユキ）

他二人がいます

リュウ

「俺帰っていいか？」

ユキ

「ちよつとまって！あなたにお願いがあるの。今から、この子の入部試験があるの、試験内容は試合をもらうわ！そこであなたに！」

ゴン

「セコンドをやってもらっ！」

リュウ

「はあ？何で俺が？わけわかんねえよ！」

サスケ

「気にしない気にしない！」

リン

「わかったら、さっさと！二人とも準備しなさい！」

リュウ・シュウ

「はい！！」

ユキ

「えーと相手はー誰がいいかな？」

カイ

「俺が・・・やる」

リン

「いいけど手を抜きなさいね！」

カイ

「わかつている・・・・・・・・」

サスケ

「じゃあ俺がセコンドするよ」

シュウ

「だいじょぶかな」

リュウ

「気にすんな！とにかく攻めろ！技術もないんだから避けることも

不可能だぜ」

シュウ

「わかった」

タイマーなどの準備が整って今試合が始まる！

ユキ

「それでは行きます！入部試験試合！レディーゴー！」

試合が始まった、始まってすぐにシュウがいきなりパンチを出した！
しかし軽く竹刀で打たれて倒れた。

リュウ

「おい！生きてるかあ！あーあー意識飛んでるよ」

カイ

「だめだな・・・」

リン

「だめね」

ゴン

「だめだ」

サスケ

「あーざんねん」

ユキ

「やはりダメでしたかあ」

そのときリュウが立ち上がり、部員を睨み言った。

リュウ

「こいつは中学生の時にイジメられてたんだ、そんな奴が、今いきなり、おまえらに勝てるわけねーだろ！」

ゴン

「勝て、とは言っていない、少しは才能が無いと危険なんだよ。」

リュウ

「才能が無い奴は、その分、努力で埋めるんだ！こいつにはそれができる！」

ゴン

「しかしなあ」

リン

「無理なものは無理よ」

ユキ

「あきらめてください、すみません」

サスケ

「残念だあーねえ！」

カイ

「帰れ……」

リュウ

「くそ！」

おっさん

「おい！待て」

部員一同

「コーチ！」

リュウ

「なんだよ。」

おっさん

「わしに提案があるんだが・・・聞くか？」

リュウ

「だからなんだよ！」

おっさん

「お前も試験受ける！お前が合格したら二人とも入部だ！」

部員一同

「コーチ！！」

リュウ

「受けてやるよ！（あれ？俺も入部するの？なんでだ？）」

おっさん

「よし！カイ！お前がやれ！」

カイ

「わかりました・・・」

リュウ

「ぶっ倒してやるよ！（あーもう！俺のモテモテ高校生活エンジン
イしてやるぜ！計画があー！）」

つづく

第三話：第一部終了

流れに流されて

リュウはカイと戦う事になった。

果たしてリュウの實力は！

カイ

「準備は・・・できたか・・・？」

リュウ

「いつでも、OKだぜ」

カイは竹刀を握り、リュウは拳を握った。

他の部員は気軽に見ている、リュウの實力を見るまでは・・・。

ユキ

「それじゃーいきます！メダバトル！レディーゴー！」

試合は始まったが二人は動かない、

お互い睨み合っている・・。

リュウ

「なんだよ?! かかってこねーのか?」

カイ

「俺から・・・行っているのか・・・」

リュウ

「あー！もう！調子狂うなあ！！」

リュウは走りだした・・・。

カイはカウンターを決めるつもりで構えている。

カイ

「お前も・・・不合格かな・・・」

リュウ

「さあ？どうかな？」

リュウはカイの目の前に来て、しゃがんだ。

カイはリュウの予定外の動きに、竹刀を空振りしてしまった・・・。

カイ

「しまった・・・」

リュウ

「アゴが丸見えだぜ！」

リュウはカイのアゴにアッパーを、くらわした！

カイ

「ヴ・・・何だ・・・？」

ボタン！！

カイが倒れた・・・

リュウ

「これで、シュウは合格なんだろう？」

コーチ

「もちろんだ！二人とも入部だ！」

リュウ

「悪いけど俺はパス！じゃあな！帰るわ！」

部員一同・コーチ

「えーーーーー！！！」

部員全員がリュウを、おいかけた！

リン

「またんかいこらあ！入部しなさあーい！」

ゴン

「お前は才能があるんだよ！入部だ！」

サスケ

「まてー！鬼ごっこだあ！」

ユキ

「お願いします！あなたなら、アマチュア最強になれます！」

リュウ

「来るなあー！俺は高校生活エンジョイしてやるんだあー！モテモテになるんだよあー！」

部室ではカイとシュウが目を覚ました。

カイ

「俺・・・負けたか」

カイは部室を出ていった。

シュウ

「あれ・・・リュウさんは・・・帰ったのかな」

シュウは負けたことを思い出し、落ち込む、そこに、コーチが話し掛けてきた。

コーチ

「明日から毎日5時からの朝の練習に参加しなさい」

シュウ

「え？僕は負けたんですよ・・・」

シュウは涙を流しながら問い掛ける。

コーチ

「理由は部員に聞け！とにかく明日から、メダバトル部の部員だ・・・いい友達だな。」

シュウ

「ありがとうございます！」

シュウ

「友達・・・？あ！リュウさんが！？」

シュウは部室を飛び出した

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5702a/>

メダバトル

2011年1月22日14時10分発行